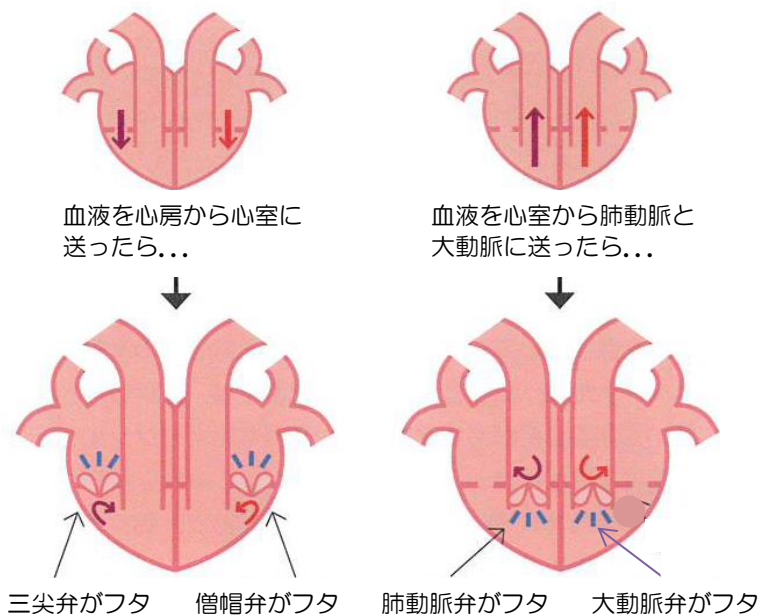




■■■ 聴診器 ・ 2 ■■■

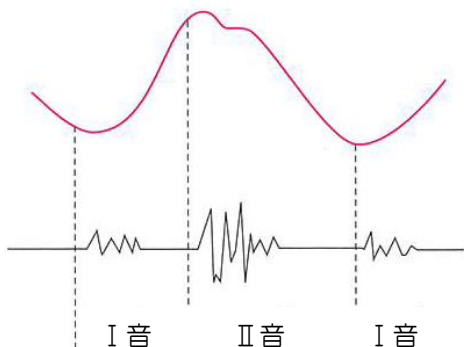
■ 身体の中から聴こえる音の意味

心臓は単にドキドキ……と動いているだけではありません。聴診器を使ってよく聴くと、心臓の弁の閉まる 2 種類の音が聴こえます。ヒトの身体の中の状態をヒトの身体の外から情報入手し、状況を把握分析することを「アセスメント」と言います。聴診器は「聴覚」を利用したアセスメントに使う道具です。



左心房と左心室の間が僧帽弁。閉まる時の音が「I音」です。

左心室と大動脈の間が大動脈弁。閉まる時の音が「II音」です。



心臓のあるところ（胸の中央胸骨の下の端あたり）に、聴診器を当てると、心臓の音が聴こえます。

その音はよく聴くと 2 種類あり、よく響く「トン！」と聴こえる音の間に「ドゥズツ」という低く鈍い音があります。これは、心臓にある弁のうち、左側の 2 つが閉まる音です。

左心室（左下）と大動脈の境目についている大動脈弁が閉まると「トン！」と響く音「II音」がします。「左心室から大動脈へと血液を送り出しました。逆流してはだめですよ」という音です。そして、この音の少しだけ前に収縮期血圧（最高血圧）があります。

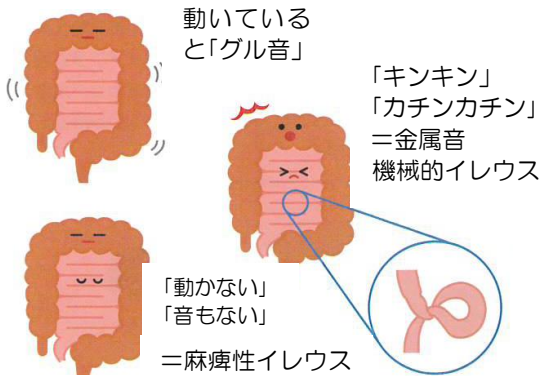
左心房（左上）と左心室（左下）の境目についている僧帽弁が閉まると、「ドゥズツ」という低く鈍い音「I音」がします。

全身を一周して心臓に戻った後、肺に向かった静脈血（暗赤色）は、肺で酸素をたくさん受け取った動脈血（鮮赤色）になって心臓（左心房）に戻ってきます。

「動脈血！左心房から左心室に入った後逆流しないでね！まっすぐ全身の細胞に酸素を届けてね！」というのが僧帽弁の閉まる音です。

この音の少し前に、拡張期血圧（最低血圧）があります。

■ 消化器の音は中間音



「中間音」は胃や腸といった消化器が動いている音です。グルコースをはじめとする栄養を身体の中に取り込むために動いている音です。腸の動くグルグルといった音が聴こえないと危険なサインです。腸管が麻痺して動かない「麻痺性イレウス」の可能性があります。音はするけど、キンキン、カチンカチンといった音も危険なサインです。金属音は物理的に詰まった機械的腸閉塞で出る音で、生命にかかわる場合もあり、緊急の処置を要することがあります。

三の丸美術館 新春 特別展



「湖風」 2020 創画展

本年も宜しく願い申し上げます 太田 泰助

謹賀新年



湖風

太田 泰助



● 売約済み

● 秘密保持 契約

あけましておめでとうございます。今年の干支は牛（丑年）ということで、私の今年作った年賀状を恥ずかしながら紹介します。というのも、海老澤先生から依頼があり、さぞ、美術教師ならではのすごいものを期待されると、年末に嫌な汗が止まらなかったです。

私は毎年2種類の年賀状を作って出しています。一つはプライベート用で、嫌がる二人の娘たちをリアルに干支のコスプレをさせて写真にしています。が、今年もう恥ずかしいようで、二人が iPad で描いた牛の絵にしました。（どうやら牛らしい,,、こっちは恥ずかしくないらしい,,、） もう一つは主に野球部や仕事用で、去年の一番大きな展覧会への出品作品です。（こっちは恥ずかしいけど,,、） 本校野球部には年賀状を出す慣習があるようで、毎年それぞれ今年の決意が書かれた年賀状が届きます。それに対し、私もきちんと応えようとパブリックなものを出しています。

毎年楽しみにしている素晴らしい慣習だと思います。私にもお世話になった先生方や友人がいて、10年以上、下手すりゃ 20 年近く会ってないけど、年賀状だけは欠かさないという相手があります。特にお世話になった先生には自分の近況を知らせる大事なツールとなっていて、メールやラインでは伝わらない良さがあるような気がしています。むしろ、なかなか会えない相手だからこそその日本の素晴らしい慣習だと思います。

期待していただいた海老澤先生に申し訳ないですが、美術教師の私でもこんなもんです,,、。年賀状は中身じゃないですってことでご容赦願います（笑）。

